

# 与那国町祖納「与那国馬保存会」

交流  
部門

## 与那国馬と共存するふるさとづくり (平成15年度認定)



当該地区は、我が国最西端に位置し、西隣の台湾までは111km離れており、文字どおりの絶海の孤島である。隔絶された島ゆえに特色ある行事、言語がみられ、また、琉球王朝の香り高い芸能と南方文化の影響を受けた芸能等が見られる。

また、特異な動植物が多数存在する。ヨナグニサン(アヤマハビル)、ヨナクニカラスバト、ヨナグニシュウダ、ミヤラヒメヘビ、ヨナクニイソノギク、ヨナクニキホコリ等の稀少種が生息している。

与那国馬は、小柄でおとなしく人に馴れやすく、粗食に耐え、持久力に富んだため、農耕用、乗用等に利用されてきたが、近年、農業機械の発展により利用されなくなってきた。そのためか、頭数も二十数頭まで激減してしまい、一時は絶滅の危機さえ危ぶまれた。与那国馬は琉球民俗の由来と発展を考察する一助ともなる貴重存在であることがわかり、島の若者が保存会への結成を行った。

現在では、保存会の努力が実り104頭まで数が増えている。保存会は、種の保存ばかりではなく、与那国馬を島おこしの起爆剤として観光客に体験乗馬等を実施し、与那国馬や島の固有種との共存するまちづくりを目指している。

